

背表紙

中表紙

書名：  
富士見市史 通史編 上巻

出版年月： 1994(平成6).01  
著者： 富士見市教育委員会

本サイズ：  
A5サイズ(148×210mm)  
厚さ50mm

ページ数： 839P

なか見！検索 コンテンツ：

- ・目次
- ・口絵
- ・年表

富士見市史の全体の巻構成

<通史編>・・・資料編の刊行後、通史編の刊行

富士見市史 通史編 上巻 : 原始～江戸時代まで

富士見市史 通史編 下巻 : 江戸末期～昭和まで

<通史編が参照している資料編の七巻>・・・1978(昭和53)から市史編纂事業が開始された

富士見市史 資料編 1 自然

富士見市史 資料編 2 考古

富士見市史 資料編 3 古代・中世

富士見市史 資料編 4 近世

富士見市史 資料編 5 近代

富士見市史 資料編 6 現代(補訂版)

富士見市史 資料編 7 民族

\*\*\*上記の資料編の作成期間に各種の資料も作成されている\*\*\*

市史調査報告書 16冊

富士見市史研究 5冊

富士見のあゆみ・・・市制十周年記念誌

当 なか見！検索

# 富士見市史 通史編（上巻） 目次

口絵

序

発刊によせて

凡例

## 第一編 自然

### 第一章 富士見の地形と地質

#### 一 富士見の地形

地理的位置 武蔵野台地と荒川低地

#### 二 富士見の地質

第四紀地史 地下地質 花粉分析と珪藻化石の分析

#### 三 富士見の気候

四季の移りかわり

### 第二章 富士見の植生と緑の自然史

#### 一 緑の構成

自然の構成 台地植生と低地植生 残された自然林の群落構造 市指定記念物

#### 二 残存自然植生と自然史

自然環境の変化と植生の変遷 レリック植物

### 第三章 富士見の動物

#### 一 哺乳類

市域の哺乳類 哺乳類各種の生態 哺乳類の分布構造

#### 二 鳥類

市域の鳥類 水域の鳥 市街地の鳥 自然林（二次林）の鳥 ツバメの分布

## 第二編 原始・古代

### 第一章 富士見最初の狩人 ―旧石器時代―

#### 一 人類の登場と旧石器時代の生活の舞台

更新世の自然環境 人類の登場と進化 前期・中期旧石器の探求 最古の日本人

#### 二 武蔵野の集落と旧石器文化

##### 1 旧石器時代の文化と生活

武蔵野の自然史 旧石器時代人の生活 石器の種類とその変遷 武蔵野台地の後期旧石器時代の遺跡

##### 2 市内の遺跡と打越遺跡

遺跡の分布 打越遺跡出上の石器群 遺跡群と打越遺跡

### 第二章 縄文人と貝塚集落 ―縄文時代―

#### 一 縄文時代と文化の特徴

縄文時代とは 縄文人の食料と縄文カレンダー 土器型式の研究とその変遷 縄文人を体験する

#### 二 土器づくりと弓矢の発明（草創期）

環境の変化と弓矢の発明 土器の発明 最古の土器と石器群 八ヶ上遺跡の隆線文土器と狩猟具

#### 三 縄文集落の形成（早期）

##### 1 縄文集落の始まり

撚糸文土器と石器 富士見最古の住居 北通遺跡の沈線文土器

##### 2 貝殻条痕文土器と文化の発展

# 富士見市史 通史編（上巻） 目次

- 尖底土器から平底土器へ 炉穴と集落
- 3 打越式土器と貝塚集落の始まり
  - 打越式土器 環状に並ぶ住居と最古の平地建物
- 四 縄文海進と水子貝塚（前期）
  - 1 縄文海進と古入間湾の貝塚
    - 縄文海進をめぐる研究 古入間湾の貝塚分布 市内の貝塚分布とその内容
  - 2 打越遺跡の集落と貝塚
    - 打越遺跡の発見と調査 前期前半の住居と集落 打越集落から水子集落への移動
  - 3 水子貝塚とよみがえる縄文のムラ
    - 水子貝塚の発見と調査 よみがえる縄文の貝塚とムラ 「水子式土器」と諸磯式土器 水子貝塚の住居と環状集落
- 五 環状集落と暮らし（中期）
  - 1 集落の増加と生活
    - 発展期の集落分布 環状集落の意味 泉の集落とアケ抜き技術の開発 原始農耕説 雄大な土器の盛行 甲信・東北地方との交流
  - 2 市内の中期集落
    - 中期集落の分布 松ノ木遺跡のムラ 羽沢遺跡のムラ
- 六 衰える縄文集落（後期・晩期）
  - 環境の冷涼化と集落の減少 後期の集落と柄鏡形住居址 呪術の文化 正網遺跡の住居と晩期東北系土器 縄文文化のゆきづまり
- 第三章 稲作と入間の農耕生活 ―弥生時代―
  - 一 稲作の始まりと弥生文化
    - 稲作の伝播 縄文人から弥生人へ 金属器と石器 弥生土器
  - 二 農耕文化の定着と暮らし（中期）
    - 県内の弥生文化の黎明 県内の農耕集落のはじまり 入間川流域の中期後半の農耕集落 南通遺跡のムラ 南通遺跡の土器と石器
  - 三 弥生文化の発展と社会の変化（後期）
    - 後期の小文化圏 後期の集落拡大と分村 柳瀬川左岸のムラムラ 方形周溝墓のはじまり 邪馬台国時代の東日本
- 第四章 武蔵の豪族と民衆 ―古墳時代―
  - 一 古墳の出現とその性格
    - 1 古墳の成立と古墳時代の始まり
      - 墳丘墓と古墳の出現 時期区分と古墳の種類 最古の古墳 関東への波及
    - 2 古墳出現期の埼玉県内
      - 県内最古の古墳 三変稲荷神社古墳
    - 3 古墳出現期の富士見周辺
      - 上福岡市権現山の前方後方型周溝墓 北通遺跡の方形周溝墓
  - 二 武蔵と入間地域の古墳
    - 1 古墳群と埼玉古墳群
      - 前方後円墳と古墳群 稲荷山古墳と辛亥銘鉄剣 武蔵国造の争乱
    - 2 入間地域とその周辺の古墳群
      - 川越市内の古墳群 権現山北古墳群 志木市内の古墳群 朝霞市内の古墳群
    - 3 富士見市内の古墳
      - 市内の古墳の概観 貝塚山古墳
  - 三 ムラとその暮らし
    - 1 生活の向上と集落

# 富士見市史 通史編（上巻） 目次

- 土器の変化 鉄器の普及と集落・住居 ムラの祭りと首長
- 2 富士見市内のムラ
  - 集落の分布と住居の変化 打越遺跡と出土遺物
- 四 古墳時代の終末
  - 1 前方後円墳の終末と群集墳
    - 前方後円墳の終焉 山王塚古墳
  - 2 横穴墓の造営
    - 横穴墓の出現 川越市の岸町横穴墓群 上福岡市の川崎横穴墓群 殿山横穴墓群
    - 横穴墓の性格
- 第五章 武蔵国の郡と郷 —奈良時代—
  - 一 律令国家の成立
    - 1 律令の制定
      - 七・八世紀の畿内 律令の制定 班田と条里制 調と庸
    - 2 武蔵国の成立
      - 七・八世紀の東国 武蔵国府 武蔵国分寺
  - 二 奈良時代の人々の生活
    - 1 入間郡の成立
      - 入間郡・高麗郡・新羅郡 郡衛 入間郡衛と神火事件 入間郡の寺院
    - 2 富士見市内のムラ
      - 郷と富士見 殿山遺跡の集落
- 第六章 拓けゆく入間の郡郷 —平安時代—
  - 一 律令体制の崩壊
    - 1 律令制の弛緩
      - 律令制の変質 倭馬の党（しゅうばのとう）と武蔵の群盗 平将門の乱
    - 2 武蔵国の動向
      - 勅使牧の成立 荘園の成立
  - 二 古代の人々の暮らし
    - 1 生産の増加
      - 農業技術の進歩 作物の種類増加 律令体制下の竪穴住居
    - 2 埼玉県内の須恵器窯址群
      - 県内の主な窯址群 新開窯址群と栗谷ツ窯址
    - 3 富士見市内のムラと生活
      - 集落の拡大と増加 柳瀬川左岸のムラ 文字の普及 蔵骨器の使用
  - 三 武士の発生と入間地域
    - 1 平忠常とその子孫たち
      - 水たまりの英雄たち 野与党・村山党
    - 2 入間郡の荘園と公領
      - 荘園と公領 河越荘の成立 河越荘の荘域 古尾谷荘とその立荘 入東郡と入西郡
    - 3 大蔵合戦から保元・平治の乱へ
      - 秩父系平氏の武蔵支配 大蔵合戦 保元・平治の乱

## 第三編 中 世

- 第一章 鎌倉幕府を支えた武蔵武士
  - 一 源頼朝の武蔵制圧

# 富士見市史 通史編（上巻） 目次

- 頼朝の蜂起と衣笠城合戦 源頼朝の江戸湾一周 村山党の活動 二俣川合戦と和田合戦
- 二 承久の乱と難波田氏の成立
  - 将軍殺害 承久の乱おこる 金子高範の討ち死に
- 三 石清水八幡宮領古尾谷荘と内藤氏
  - 古尾谷荘とその荘域 古尾谷荘と寛喜の飢饉 古尾谷荘と内藤氏 黒栖左衛門尉の刈田狼藉
- 四 鎌倉時代後期の村山党
  - 淡路国都志郷をめぐる相論 仙波一族の受難 鎌倉後期の村山党を代表する者
- 五 鎌倉時代の生活と文化
  - 1 板碑の流行
    - 板碑の定義 武蔵型板碑 板碑の分布とその変化 尖頂有額板碑
  - 2 鎌倉道
    - 道とその背景 市内の鎌倉道
- 第二章 南北朝・室町時代の入間地域
  - 一 鎌倉幕府の滅亡と南北朝内乱
    - 幕府滅亡と河越氏 建武政権下の河越氏 伊予国の仙波氏・大窪氏
  - 二 観応の擾乱と羽祢蔵合戦
    - 南北朝内乱の開始 観応の擾乱 薬師寺公義の蜂起 羽祢蔵合戦
  - 三 平一揆の反乱と河越氏の滅亡
    - 足利尊氏の鎌倉府設立 畠山国清の上洛 畠山国清の没落 宇都宮氏・平一揆の反乱 古尾谷氏の活躍 仙波氏の所領争い 金子郷の景観
  - 四 室町時代の入間地域
    - 古尾谷氏と難波田氏 関東の内乱と扇谷上杉氏 各地に作られた市
  - 五 南北朝・室町時代の生活と文化
    - 1 村落と墓
      - 墓のいろいろ 段切り状遺構 打越遺跡の遺構 北通遺跡の遺構 中世村落の景観
    - 2 板碑と信仰
      - 信仰の変化 結衆板碑 私年号板碑 宝麓印塔 五輪塔 仏像と仏具
    - 3 富士見市域の中世寺社
      - 離波日の如意輪寺 水子大応寺と勝瀬護国寺 富士見市域の神社
    - 4 生活用具など
      - 中世の土器 金属製品とその他の遺物
- 第三章 戦国時代の入間地域
  - 一 扇谷上杉氏と難波田氏
    - 大田道灌の暗殺 長享の乱 上杉顕定の死と永正の乱 難波田正直の登場 上杉朝興と北条氏綱の抗争 品川をめぐる争い
  - 二 河越合戦
    - 河越落城 河越合戦 扇谷上杉氏の滅亡
  - 三 後北条氏支配下の入間地域
    - 小田原衆所領役帳 三つ巳の争覇 後北条氏支配下の村 鶴間の新宿 上田氏と日蓮宗 岩付衆中筑後守 後北条氏の滅亡
  - 四 城と館
    - 地誌類にみる城館跡 難波田城 鶴馬館 鶴馬城 勝瀬館
  - 五 十玉坊と聖護院
    - 聖護院准后道興の旅 関東の修験 十玉坊の盛衰 近世修験へ

# 富士見市史 通史編（上巻） 目次

## 第四編 近 世

### 第一章 里方と野方

#### 一 近世のはじまり

戦国から「平和」への道 徳川氏の関東入国と知行割 豊臣政権から徳川政権へ  
下級家臣団の知行宛行 領主の陣屋支配 富士見市域における村の領主・代官

#### 二 村のなりたち

「野」と「里」—富士見市域の村落景観 野方の村々 里方の村々 「草分け百  
姓」の伝承と開発 低湿地の開発と初期の検地 初期の年貢と村落

#### 三 武蔵野の開発

##### 1 秣まぐさ場の利用

秣まぐさ場（馬草場）の村 野銭場の設定 初期の武蔵野開発 野守の活動

##### 2 慶安二年の出入り

武蔵野新畑開発一件 川越藩の開発と新畑論所一件

##### 3 貞享の出入り

貞享元年の五カ村訴訟 八カ村の訴訟 野守への反発 馬草場出入りの裁許 貞享  
二年の川越領武蔵野下萱出入り

#### 四 近世村落の形成と検地

地頭・領主の交替 近世前期の市域の検地 元禄検地の実施 石高制の矛盾

### 第二章 村のしくみ

#### 一 市域の村々

村々の様子 川越藩主の交代と市域

#### 二 村の行政と自治

村役人の仕事 村の財政 さまざまな規制 年貢と諸役 鷹場の負担 生活の中での  
争い

#### 三 村の生活

村の一年 村議定 家族 女性の役割

### 第三章 自然への対応

#### 一 農業のようす

溜池と摘田 低湿地の開発 用悪水と植田 産物の推移 秣まぐさと金肥

#### 二 水害と日照り

寛保二年の大水害 開発の進展と築堤 打ち続く水害 日照りと井戸掘り

#### 三 水をめぐる村々

谷津の用水争いと低地の悪水出入り 南畑と宗岡の佃堀出入り 大久保村の金子道  
盛り土争論 荒川堤をめぐる右岸と左岸 新河岸川の藻刈り出入り

### 第四章 交流の拡大

#### 一 村の変化

村の構造変化と質地 大久保村大沢家の経営 村の商人や職人 水車稼ぎ 豪農の  
成長と江戸地廻り経済

#### 二 新河岸川舟運と村々

新河岸川の舟逝 富士見市内の河岸場 新河岸場取り立ての争い 問屋株をめぐる  
動き 市内の川船 船使と船荷 川船の統制 船頭の生活と信仰

#### 三 商取引の拡大

江戸奥川積問屋 水子河岸茗荷屋の商圈 炭薪直売出入り一件

### 第五章 広がる空間

#### 一 生活の変化

衣食住の変化 人生の節目 家々のつきあい

# 富士見市史 通史編（上巻） 目次

- 二 講と祭り
  - 講 祭り—獅子舞— 地域・同族・家を単位とする信仰
- 三 拡大する知識
  - 手習いと寺子屋 算額 俳諧の発展と文化的地域の成立
- 四 旅と代参
  - 旅の変容 伊勢参りにみる娯楽と信心の旅 大山参詣と湯治 古峯原こぶがはら・尾
  - おざく山への代参 社寺参詣と物見遊山の旅 旅へのまなざし
- 第六章 変わりゆく社会
  - 一 領主支配の弛緩
    - 明和の伝馬騒動 「潰れ百姓」と貫徳金 飢饉と貯穀 領主財政の破綻と豪農層
  - 二 文政改革と組合村
    - 関東取締出役の設置 農村の変化と対応 文政改革 組合村の設置 川越領の組合と大和田町組合 圏の設置 天保の改革と組合村
  - 三 黒船と情報の広がり
    - 外国船の来航 相州警備と川越藩 情報の広がり
  - 四 開国の影響
    - 台場建設 和官の下向と村々の負担 対外関係の緊迫と村々 前橋への引き移り 経済の変動
  - 五 武州世直し一揆と農兵反対一揆
    - ぼっこし 武州世直し一揆の展開 世直し一揆後の対応 川越藩の農兵取り立て 農兵取り立て反対運動の推移 封建の世の終焉

## 富士見市関係略年表（上巻）

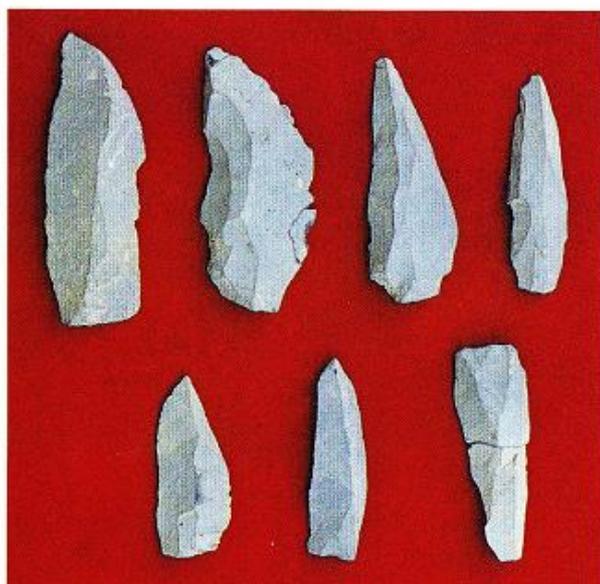
参考文献一覧

資料提供者・協力者一覧

執筆者分担一覧

富士見市史編さん関係者名簿

あとがき



2 谷津遺跡 X 層の旧石器



1 カタクリの花



3 八ヶ上遺跡出土の縄文時代草創期の遺物



4 水子貝塚の航空写真



5 羽沢遺跡出土の獣面把手付土器



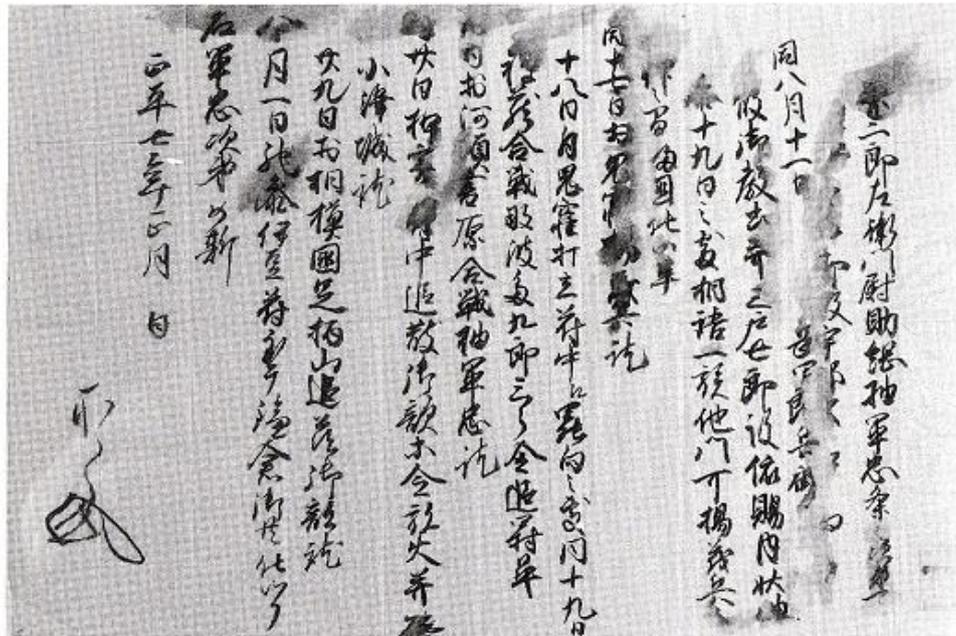
6 南通遺跡の航空写真



7 北通遺跡出土のガラス玉



8 宇治川合戦先陣の図絵馬 (榛名神社蔵)



9 高麗三郎左衛門助綱軍忠状 (彦根城博物館保管)



10 板碑のある風景 (勝瀬護国寺)



11 日本最古の月待板碑



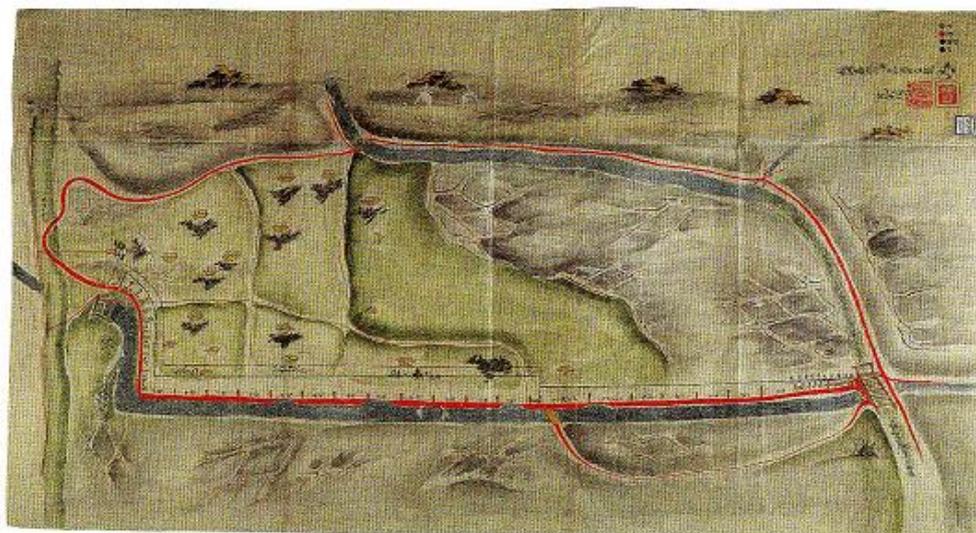


13 日蓮祖師像 (東松山市妙安寺蔵)



14 日蓮祖師像台座銘文





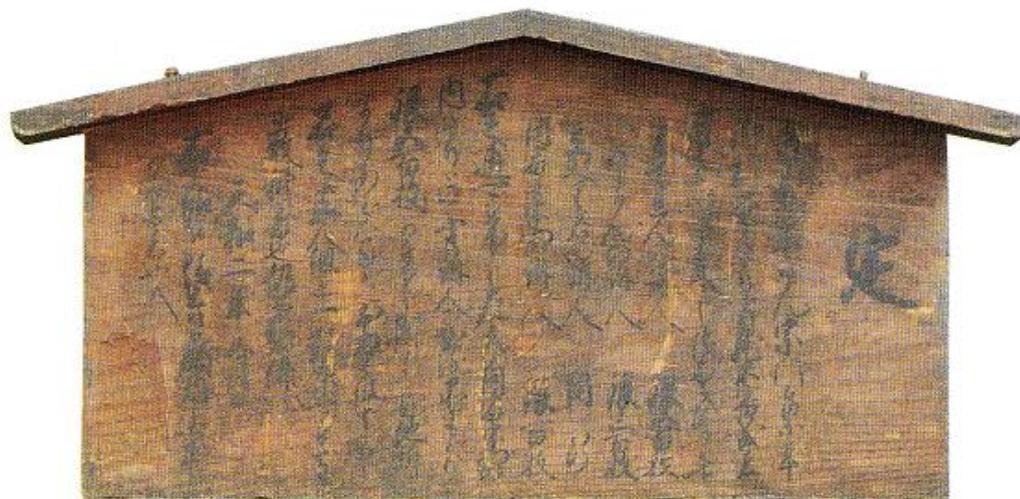
17 「荒木北川筆悪水堀絵図」(大沢誠一家蔵)



18 東大久保 大沢家 (昭和62年撮影)



19 「尾張藩鷹場繪圖」(徳川林政史研究所蔵)



20 高 札 (田中薫家蔵)



21 諏訪神社獅子舞

富士見市関係略年表 (上巻)

時代	西 暦	和 暦	富士見市域とその周辺部の主なできごと	参 考 事 項	
原始	旧石器	BC 290000		日本最古の石器が作られる(宮城県高森遺跡)。	
		BC 140000		日本最古の配石が作られる(宮城県馬場壇A遺跡)。	
		BC 25000	谷津遺跡で富士見市最古の石器がつかられる。		
		BC 21000		鹿児島県桜島始良カルデラが爆発し、関東まで降灰する。	
	縄文	BC 15000		ナイフ形石器が盛んに使われる。	
		BC 10000			最古の縄文土器が作られる(長崎県泉福寺洞穴)。
		BC 9000	八ヶ上遺跡で隆線土器が使われる。		弓矢が発明され、全国的に普及する。
		BC 5000	市内最古の竪穴住居が作られる。 屋外炉(炉穴)が盛んに作られる。		
		BC 4000	縄文海進で市内の各所にも貝塚が多く形成される(貝塚山遺跡、殿山遺跡、打越遺跡、水子貝塚、北通遺跡他)。		縄文海進で各地に貝塚が形成される。
		BC 2500	羽沢遺跡、松ノ木遺跡などに環状集落がつかられる。		千葉県などに加曽利貝塚や堀之内貝塚などの大規模な貝塚が形成される。
弥生	BC 1000		正網遺跡で晩期の遺構が作られる。	東北地方で亀ヶ岡文化が栄える。	
	BC 300			日本で本格的に稲作が始まる(福岡県板付遺跡他)。	
	1		正網遺跡で須和田式土器が使われる。 南通遺跡で弥生時代の本格的な集落が形成される。		
	200		東台遺跡、北通遺跡で方形周溝墓がつかられる。 北通遺跡、南通遺跡で環状集落がつかられる。	「倭国大乱」と中国の歴史書に記される。 登呂遺跡が営まれる。	
	300		北通遺跡で鉄剣の副葬された方形周溝墓がつかられ。		
古墳	400			前方後円墳が出現する。 桶川市に熊野神社古墳が造られる。	
	534			「武蔵国造の争乱」の記事が「日本書記」にある。 埼玉古墳群が形成され始める。 稲荷山古墳の辛亥銘鉄剣が副葬される。	
			貝塚山古墳が造られ、直刀が副葬される。 針ヶ谷・正網に人物埴輪、銅鏡、玉を副葬した古墳が作られる(「旧版埼玉県史」)		
	600			この頃、吉見町の吉見百穴横穴墓が造られる。	
			この頃、川越市の牛塚古墳群が造られる。		
	古代	飛鳥	628	推古36	3 推古天皇の遺言により厚葬が禁じられる。
			630	舒明2	8 初めて遣唐使が派遣される。
			645	大化1	6 大化の改新が始まる。
			662	天智2	8 日本が白村江の戦いで唐・新羅連合軍に破れる。
			672	天武1	6 壬申の乱が起きる。
奈良		694	持統8	12 藤原家が完成する。	
		698	文武2	この頃、入間郡を含む武蔵国の郡司が任命される。	
		701	大宝1	8 大宝律令が完成する。	
		708	和銅1	1 武蔵国より純銅が献上され和銅と改元される。	
		710	和銅3	3 都が平城京に移される。	
平安	奈良	718	霊龜2	5 東国七国の高麗人を移し武蔵国に高麗郡が設置される。	
		720	養老4	5 初の勅撰歴史書「日本書記」が完成する。	
		741	天平13	3 国分寺・国分尼寺建立の詔が出される。	
		758	天平宝字2	8 渡来人を武蔵国に移住させて新たに新羅郡が設置される。	
		768	神護景雲2	7 入間郡の物部広成ら六人に入間宿禰の姓が与えられる。	
	平安	771	宝龜2	10 武蔵国が東山道から東海道に移される。	
		773	宝龜4	2 入間郡の正倉が焼失した責任を問われて郡司が解任される。	
		777	宝龜8	6 入間郡の大伴部赤男が外従五位下を追贈される。	
		781	天応1	9 入間宿禰広成らが外従五位下となる。	
		784	延暦3	11 長岡京に遷都する。	
平安	奈良	790	延暦9	2 入間宿禰広成らが従五位下となる。	
		794	延暦13	10 平安京に遷都する。	
		833	天長10	5 武蔵国多摩郡と入間郡の境に悲田所が置かれる。	
		845	承和12	3 武蔵国分寺の七重塔の再建を大倉郡大領任生福生が願い出て許可され	
		861	貞観3	11 武蔵国に盗賊が横行するため、郡ごとに検非違使一人が設置される。	
	平安	939	天慶2	11 平将門の乱が本格化し、翌年二月まで続く。	
		1028	長元1	6 平忠常の乱が起こる(長元三年まで)。	
		1156	保元1	7 保元の乱が起こり、村山党の金子・山口・仙波氏らが源義朝方として活躍する。	
		1159	平治1	12 平治の乱が起こり、金子家忠等が義朝の子義平に属して戦う。	
		1180	治承4	8 源頼朝が伊豆に挙兵し、「金子、村山輩」が畠山氏に属して頼朝方の相模の三浦義澄を攻撃する。	
平安	元暦	1184	1 金子家忠らが源範頼に属して入京する。	10 このころ源頼朝が武蔵を支配し、国内の各氏が帰服する。	
		2 金子家忠が屋島の合戦に参加する。	3 平氏が滅亡する。		
		10 金子家忠・仙波安家が源頼朝の勝長寿院参詣の随兵となる。			

富士見市関係略年表 (上巻)

時代	西 暦	和 暦	富士見市域とその周辺部の主なできごと	参 考 事 項			
中世	鎌倉	1189	文治5	7 金子(難波田)小太郎高範が奥州藤原泰衡攻めに参陣する。	9 奥州藤原氏が滅亡する。		
		1190	建久1	11 源頼朝が上洛し、金子・山口・仙波氏等とともに金子(難波田)小太郎高範が随兵となる。			
		1191	建久2	2 金子家忠が頼朝の伊豆箱根参詣に従う。			
		1192	建久3				
		1195	建久6	2 金子家忠・山口信景が頼朝の東大寺供養の随兵となる。	7 鎌倉幕府が開かれる。		
		1205	元久2	2 「金子村山党」が北条方として、二俣川合戦において畠山重忠を攻める。			
		1207	承元1		3 幕府が武蔵の荒野開発を命ずる。		
		1211	建暦1		12 幕府が武蔵国などに太田文の作成を命ずる。		
		1213	建保1	5 金子近吉らが和田氏の乱に味方して敗れる。			
		1214	建保2	この頃までに、鴨長明の『発心集』が成立する。この中に入間川の洪水のことが記される。			
		1219	承久1		1 三代將軍源実朝が殺される。		
		1221	承久3	6 承久の乱に、金子・山口・仙波・須黒氏らの村山党が参陣し、金子(難波田)小太郎高範が討ち死にする。	5 承久の乱が起こる。		
		1227	安貞1		この年、年号を記した最古の板碑が埼玉県江南町に建てられる。		
		1232	貞永2	2 幕府が武蔵樽沼(横沼)堤の修築を命ずる。	8 貞永式目が制定される。		
		1241	仁治2		10 幕府が武蔵野を開発して水田をつくる計画を立てる。		
		1252	建長4	この頃、勝瀬護国寺。南畑新田慈光院墓地にある「尖頂有額板碑」が作られる。これ以後、市域に板碑が造立されるようになる。			
		1274	文永11		11 文永の役が始まる。		
		1281	弘安4		5 弘安の役が始まる。		
		南北朝	室町	1333	元弘3	5 六波羅探題が滅亡する。この時北条氏とともに金子十郎左衛門尉殺傷弘が近江番場宿で自殺する。	5 鎌倉幕府が滅亡する。
				1335	建武2		7 中先代の乱が起こる。
1336	建武3				12 足利尊氏が後醍醐天皇に反旗をひるがえし、南北朝内乱となる。		
1337	建武4			1 渡戸の星野家墓地内に「建武四年」の板碑が造立される。			
1350	観応1				8 尊氏・直義兄弟が不和となり、足利氏の内紛(観応の擾乱)に発展する。		
					9 足利基氏が鎌倉公方となる。		
1351	観応2			12 羽祢蔵合戦で、難波田九郎三郎が高麗経澄に討ち取られる。 <small>(正平6南朝年号)</small>	10 武蔵・駿河で尊氏・反尊氏両派の合戦が起こる(武蔵野合戦・薩唾山合戦)。		
1359	延文4			2 足利基氏が金子越中六郎左衛門忠親に、將軍足利義詮に従って上京して南朝を討つように命ずる。			
1376	永和2			この年、東大久保観音堂墓地にある市内最古の逆修の宝篋印塔が造立される。			
1379	永和5			2 金子家重が入西郡金子郷屋敷を孫「いぬそう」に譲る。			
室町	室町	1382	永徳2	4 金子家佑が小山義政の誅伐に参加して軍忠状を提出する。			
		1392	明德3		10 南朝と北朝が合一される。		
		1399	応永6		11 応永の乱が起こる。		
		1400	応永7	12 鎌倉公方足利満兼が入東郡内の難波田小三郎入道の遺領を鶴岡八幡官に寄進する。			
		1409	応永16		7 足利持氏が鎌倉公方に就任する。		
		1415	応永22	7 「市場祭文」が作成され、このなかに水子郷の市の名がある。			
		1416	応永23	この頃、大応寺にある「応永廿口」年の五輪塔が造られる。 「応永口年十二月」銘の鰐口が、中山大明神に奉納され、下南畑八幡神社に現存する。	10 上杉禅秀の乱が起こる。		
		1428	正長1		9 正長の土一揆が起こる。		
		1438	永享10		8 永享の乱が起こる。		
		1441	嘉吉1	鶴馬地区発見の日本最古の月待供養板碑が作られる。これ以後、市域で月待・夜念仏などの結衆板碑が造立される			
		1454	享徳3		12 享徳の乱が起こる。		
		1455	康正1		6 鎌倉公方足利成氏が下総古河へ逃れ、以後「古河公方」と称される。		
		1457	長祿1		4 大田道灌が江戸城を築く。 この年、足利政知が伊豆堀越に居を構え「堀越公方」と称される。		
		1463	寛正4		この年、扇谷上杉持朝が河越荘に入部し河越城をつくるという。		
		1467	応仁1		1 応仁の乱が始まる。		
		1477	文明9	4 榛名神社が林光坊によって再築される。			
		1480	文明12	7 聖護院門跡が十五坊に対して入東郡某所ならびに清戸の年行事職を認可する。			
		1482	文明14		11 將軍足利義政が古河公方足利成氏と和睦する(都鄙合体)。		
1486	文明18	聖護院門跡道興がこの年の暮れから翌年一月にかけて武蔵国を遊歴し、大塚の十玉院に滞在する。	7 上杉定正が重臣大田道灌を誘殺す				

富士見市関係略年表 (上巻)

時代	西 暦	和 暦	富士見市域とその周辺部の主なできごと	参 考 事 項
戦国	1487	長享1	1 聖護院門跡道興が騎西郡年行事職を十玉坊賢承に認可する。 7 聖護院門跡道興が武蔵国遊歴で十玉坊に滞在したことに報いるために「修学者御免」の待遇に準ずることを伝える。	
	1488	長享2		6 一向一揆により加賀国守護富樫政親が自刃する。
	1491	延徳3 (福德2)	この年、妙順禅尼が法華経の女人成仏の偈を刻んだ板碑を、上沢地藏堂墓地に造立する。 この年の私年号「福德二年」の紀年を持つ板碑が市域で四基確認される。	
	1493	明応2		この年、北条早雲が堀越公方足利茶々丸を攻め滅ばし、伊豆韮山に築城する(旧説延徳三年)。
	1495	明応4		9 北条早雲が小田原城を奪う。
	1516	永正13		12 古河公方足利政氏が武蔵の岩付へ移る。
	1520	永正17	5 難波田正直(善銀)が越生の報恩寺に田地六反を寄進する。	
	1524	大永4	1 江戸城主上杉朝興が北条氏綱と戦い敗れ、河越城に逃れる。	
	1525	大永5		2 北条氏綱が大田資頼の岩付城を攻略する。
	1530	享禄3	6 北条氏綱が河越城主上杉朝興・家臣の難波田弾正。上田蔵人らを小田原で破る。	
	1533	天文2	8 品川妙国寺に上杉朝興・難波田弾正の禁制が出される。	
	1534	天文3	4 練馬郷の上原雅楽助父子が、水子の就玉坊(十玉坊)が熊野の先達であると記す。	
	1537	天文6	7 北条氏綱が河越城を攻め落とす。上杉朝定は難波田憲重の守る松山城に逃れるが、氏綱はさらに松山城を攻め落とす。	
	1538	天文7	8 難波田正直(善銀)が門前屋敷を越生報恩寺に寄進する。	
	1543	天文12		8 ポルトガル人が種子島に漂着し、鉄砲を伝える。
	1545	天文14	9 上杉朝定・難波田正直らが足利晴氏・上杉憲政に働きかけて、ともに出馬する。	
	1546	天文15	4 上杉憲政・上杉朝定らが河越城を包囲する。北条氏康は河越城の救援に向かい、両上杉軍を砂窪の合戦で撃破する。河越合戦で上杉朝定・難波田正直が戦死する。さらに松山城が落城する。	
	1549	天文18		7 イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸し、キリスト教を伝える。
	1550	天文19	4 北条氏康が領国支配のために抜本的な税制改革を行う。	
	1555	弘治1	この年、鶴間・難波田・水子三郷の検地が行われる(乙卯検地)。	
1559	永禄2	2 北条氏康が「小田原衆所領役帳」を作る。富士見市域は上田左近(鶴間・難波田・水子)、大窪丹後・内匠助・勘解由(大窪)、勝瀬孫六(勝瀬)の知行地となる。難波田与太郎・難波田後家は棟岡・池辺などに知行地を与えられる。 この年、難波田与太郎が小代惣社八幡官に鰐口を寄進する。		
1560	永禄3		5 桶狭間の戦いで織田信長が今川義元を破る。	
1561	永禄4	5 岩付城主太田資正が松山城を奪取する。		
1563	永禄6	2 松山城が北条・武田連合軍によって落城する。		
1564	永禄7		1 第二次国府台の戦いで、北条氏が安房の里見氏を破り関東を制圧する。	
1567	永禄10	9 北条氏康が飯田郷における乱暴狼藉停止の禁制を出す。		
1568	永禄11		9 織田信長が足利義昭を奉じて京都に入る。 3 越相同盟が締結され、武蔵は基本的に北条氏の領国となる。 7 織田信長が足利義昭を追放し、室町幕府が滅亡する。	
1570	元亀1			
1573	天正1			
1577	天正5	4 上田周防守の墓石が水子性蓮寺に造立される。 7 北条氏政の結城晴朝攻撃の陣立書に中筑後守の名がある。		
1578	天正6		9 北条氏政が世田谷新宿を楽市とする。	
1579	天正7	2 かつて水子にあった十玉院を芝山(清戸)に再興することが許可される。 8 聖護院門跡が入東郡・新倉郡年行事職を十玉坊に安堵する。		
1582	天正10		6 明智光秀の謀反により、織田信長が自刃する。	
1585	天正13		7 豊臣秀吉が關白となる。	
1587	天正15		12 豊臣秀吉が惣無事令を發布する。	
1589	天正17	10 鶴間・根岸を知行する原兵庫助がこのニカ所の新宿について訴状を提出する。 豊臣秀吉方の前田利家が松山城を攻め落とす。難波田憲次が上田氏とともに降伏する。岩付城はそれ以前に落城する。		
1590	天正18	5	7 北条氏直が豊臣秀吉に降伏する。 8 徳川家康が関東へ入国する。	

近世

富士見市関係略年表 (上巻)

時代	西 暦	和 暦	富士見市域とその周辺部の主なできごと	参 考 事 項
江戸	1591	天正19	5 徳川家康が多門成正に鶴馬村、太田清政・芝山正員・朝比奈昌親に水子村内に知行地を与える旨の所領宛行状を発給する。 この年、館村（のちの針ヶ谷村を含む）が検地を受ける。	
	1592	文禄1	10 勝瀬「輪光法印」が没する。	4 文禄の役が始まる。
	1594	文禄3	8 聖護院門跡が篠井観音堂と十玉坊の入東郡の年行事職に関する争論について十玉坊に安堵する。	
	1596	慶長1	8 聖護院役僧が、明白な証文の提出があるまで入東郡の知行を続けるように篠井観音堂に伝える。	
	1597	慶長2		2 慶長の役が始まる。
	1598	慶長3		8 豊臣秀吉が没する。
	1600	慶長5		9 関ヶ原の戦いで東軍が西軍を破る。
	1603	慶長8		2 徳川家康が征夷大將軍となり幕府を開く。 3 幕府が関東の公私領に郷村掟七カ条を公布する。
	1609	慶長14	5 金子村住民が篠井観音堂と十玉坊との争論について、十玉坊がこれらの村に関与したことはないと言書提出する。 聖護院門跡が高麗郡・入東郡内の年行事職について一部を除いて観音堂に安堵する。	
	1610	慶長15	12 鶴馬村領主多門成正が没する。	
	1612	慶長17		この年、幕府が駿河の銀座を江戸に移す。
	1613	慶長18		12 幕府がキリシタン禁教令を発令する。
	1614	慶長19		11 大坂冬の陣が起こる。
	1615	元和1		5 大坂夏の陣で豊臣氏が滅亡する。
	1616	元和2		4 徳川家康が没する。
	1624	寛永1		この頃、川越街道が整備され、宿場が設置されるという（『新座市史』）。
	1631	寛永8		この年、川越藩が大久保村を検地する。
	1633	寛永10		この年、尾張藩が江戸西郊に鷹場を与えられる。
	1635	寛永12		6 武家諸法度が改定され、諸大名に参勤交代を義務づける。
	1636	寛永13		6 幕府が寛永通宝鑄造のため銭座を開設する。
	1637	寛永14		この年、長崎の出島が完成する。 10 幕府が五人組制度を強化する。 島原の乱が始まる。
	1639	寛永16	1 松平信綱が川越藩主となる。	6 幕府が宗門改役を設置する。
	1640	寛永17		この年、焼失した川越東照官再建の資材を運搬するために新河岸川が利用される。
	1643	寛永20		3 大飢饉に際して幕府が田畑永代売買の禁止を定める。 12 幕府が諸大名に郷帳国絵図などの作成を命ずる。
	1644	正保1		
	1647	正保4		この年、松平信綱が新河岸川の大改修を行うという。
	1648	慶安1		この年、川越藩が領内で大々的に検地を行い、市域でも大久保村・上南畑村・下南畑村・南畑新田を検地する。 この年、川越藩主松平信綱、新河岸川の舟運を開設するという。
	1649	慶安2		4 武蔵野の株場出入りが起こる。 5 川越・八王子などに大雪・降雹があり、人馬多数が死傷する。
	1651	慶安4		7 慶安事件が起こる。
	1654	承応3		6 玉川上水が完成する。
	1655	明暦1		この年、干害で南畑全域の田の作付けが不能となる。
	1656	明暦2		4 川越藩が大根・胡麻・粟・稗などの栽培を奨励する。
	1657	明暦3		1 明暦の大火で江戸城本丸が焼失する。
	1661	寛文1		この頃より下南畑村が、野火止・鶴馬・針ヶ谷・水子等の野方を開発する。
	1662	寛文2		この頃、佃・木染・武之内の築堤はじまる。
	1664	寛文4		1 渡戸観音堂にある市内最古の馬頭観音が造立される。 2 鶴馬山室地藏堂にある市内最古の庚申塔が造立される。 11 羽沢観音堂に市内最古の地藏尊が造立される。
	1665	寛文5		
	1669	寛文9		11 幕府が京升への統一令を全国に公布する。
	1673	延宝1		6 幕府が初めて分地制限令を公布する。
	1676	延宝4		5 寺小屋の弟子の名が記された上南畑東光寺墓地の無縫塔が造立される（市内最古のもの）。
	1678	延宝6		この頃、市域が尾張藩の鷹場となる。
	1684	貞享1		8 鶴馬・水子・勝瀬を含む13ヶ村の名主が野守を相手に株場の訴訟を起こす。
1685	貞享2		11 大久保・三南畑村と鶴馬村との間に株場出入りが起こる。	
1687	貞享4		1 幕府が最初の生類憐れの令をだす。	
1692	元禄5		この頃、伊佐沼から南畑地区への用水が完成する。	
1693	元禄6		5 殺生禁断により鷹場が消滅する。	
1694	元禄7		1 柳沢吉保が川越藩主となり、武蔵野開発に着手する（三富新田）。	

富士見市関係略年表 (上巻)

時代	西 暦	和 暦	富士見市域とその周辺部の主なできごと	参 考 事 項
	1697	元禄10	この頃、柳沢吉保が川越周辺の天領・旗本領をほぼ領地とし、富士見市域も川越領となる。	この年、幕府が旗本を対象に地方直しを実施する。
	1699	元禄12	8 川越藩が鶴馬村を検地する。	
	1700	元禄13	この年、川越藩が水子村を検地する。	
	1701	元禄14	この年、川越藩が勝瀬村を検地する。	
	1704	宝永1	12 川越藩主に秋元喬知が入封する。	
	1716	享保1		8 徳川吉宗が将軍となり、享保の改革が始まる。
	1717	享保2	5 徳川御三家に鷹場が再贈され、鷹場制度が復活する。	
	1722	享保7		4 幕府が質地流禁止令を公布する。 7 幕府が日本橋に諸国開発奨励の高札を立てる。 11 幕府が分地制限令を緩和する。
	1726	享保11		2 幕府が全国に戸口調査を命ずる。
	1732	享保17		この年、西日本に飢饉が起こる(享保の大飢饉)。三大飢饉のはじめとなる。
	1734	享保19		この年の秋、青木昆陽がさつまいもの試作に成功する。
	1737	元文2		この頃、関東でさつまいもの栽培が本格化する。
	1742	寛保2	8 大風雨により利根川・荒川などが大洪水となり、関八州に大被害をもたらす。	
	1744	延享1	川越藩主が甘藷の植え付けを付近の村へ奨励する。	この年、『御触書寛保集成』が完成する。
	1751	宝暦1	この年、入間郡南永井村名主がさつまいもの栽培を始める。	
	1754	宝暦4	11 大雪のため死人が多く出る。 尾張藩の鷹場で、鶴馬村など五カ所に10人の鳥見が配置される。	
	1757	宝暦7	1~2 尾張藩主が鷹狩りのため水子村などを訪れる。	
	1764	明和1	間12 中山道の増助郷に反対する伝馬騒動(天狗騒動)が起こる。	
	1767	明和4	この頃から、内川は新河岸川と呼ばれたという。 この年、伝馬騒動の咎により水子・鶴馬の村役人が処罰される。 3 川越藩主秋元但馬守が山形へ転封し、水子村・針ヶ谷村・鶴馬村下分が残領となる。代わりに松平大和守が入る。	
	1771	明和8		7 伊勢神宮へのおかげまいりが諸国で大流行する。
	1772	安永1	この頃、「難波田」の村名が悪いために水害を被るとして、南畑と改書されたという(『新編武蔵風土記稿』)。	1 田沼意次が老中となる。
	1773	安永2	12 幕府の勘定奉行より、新河岸川沿いの市内のものをふくむ16カ村の船間屋株が公認される。これ以前に市内の河岸が開設される。	
	1779	安永8		この年、全国的な異常寒波で各地に様々な災害が起こる。
	1780	安永9	3 芳野平兵衛(大久保)・関野弥市良(水子)らが山口の金乗院(所沢市)に算額を奉納する。	
	1783	天明3		7 浅間山の噴火で関東一円に砂が降る。その後、天明の大飢饉が本格化する。
	1784	天明4	この年、水子村惣左衛門が水子から関沢の地に水車移転の願書を役人に提出する。	
	1786	天明6	7 洪水で大久保村境の荒川堤防がニカ所決壊する。 10 鶴馬村の検見で洪水の被害が報告される。	7 関東一円に大洪水の被害がある。
	1787	天明7	4 佃堤の土盛りの件で、三南畑村が宗岡村を相手に訴訟を起こす。	6 松平定信が老中首座となり、寛政の改革が始まる。
	1788	天明8	9 佃堤の上盛りの件の訴訟が裁許される。	
	1789	寛政1		この年、武蔵・下総・葛飾郡の村々が下肥値下げを勘定奉行に嘆願する。
	1793	寛政5	2 川越藩が相州警備の任につく。 この頃、水子村に尾張藩鷹場の陣屋が設置される。	
	1795	寛政7		この頃、武蔵における紅花栽培が上尾の七五郎により開始される。
	1799	寛政11	この頃、鶴馬村の源兵衛・佐七・宗兵衛の三人が共同で関沢に水車を設置する(中の水車)。 8 鶴馬村渡戸の「永代獅子祭益金差定連印帳」が作成される。	1 『寛政重修諸家譜』の編さんが開始される。
	1800	寛政12		間4 伊能忠敬が蝦夷地の測量を開始する。
	1805	文化2		6 幕府が関東取締出役を設置する。
	1808	文化5		8 フェートン号事件が起こる。
	1810	文化7		この年、『新編武蔵風土記稿』の編さんが始まる。
	1817	文化14	この年、『新編武蔵風土記稿』編さんのため、地誌調査役が鶴馬村に来村する。	
	1820	文政3	12 川越藩領の一万二〇〇〇石が相州三浦半島に替地となり、川越藩が相州警備役を命じられる。	
	1823	文政6	10 鶴馬村御林開発願書が作成される。	
	1825	文政8		2 幕府が諸大名に異国船打払令を出す。
	1827	文政10		2 幕府が改革組合村の結成を命ずる(文政の改革)。

富士見市関係略年表 (上巻)

時代	西 暦	和 暦	富士見市域とその周辺部の主なできごと	参 考 事 項	
近 代 明 治	1830	天保1	この年、水子城の下の牛頭天王宮が建立される。	この年、おかげまいりが大流行する。	
	1833	天保4		この年、東北を中心に天保の大飢饉が始まる。	
	1834	天保5	1 『江戸名所図会』が刊行され、市域の旧跡も紹介される。		
	1837	天保8	4	早船に客を乗せたとして、新河岸川の各船間屋が川越街道の宿場よりその停止を訴えられる。	2 大塩平八郎の乱が起こる。
			6		6 モリソン号事件が起こる。
	1840	天保11	9	大久保村と渋井村が荒川堤について、対岸の植田谷本村新田と争論となる。	
			11	川越藩主松平大和守を出羽庄内へ移封する発令が行われたが、庄内藩領の農民の反対で撤回される(翌年12月7日)。	
	1842	天保13	10	尾張藩主の鷹狩りのため、南畑橋より内間木まで新河岸川の船の通行が禁止される。	5 高島秋帆が徳丸ヶ原で西洋砲術の訓練を行う。
	1843	天保14			天保の改革令が發布される。
					7 『天保御触書集成』ができる。
	1846	弘化3	4	幕府が川越藩に外国船の江戸湾侵入阻止を命ずる。	
	1847	弘化4	6	大洪水のため大久保村境の荒川堤防が決壊する。	
				この年、佃堤の件で宗岡村へ三南畑村が抗議する。	
	1848	嘉永1			この年、全国各地に外国船が来航する。
	1853	嘉永6	11	川越藩が異国船の来航に備え江戸湾一の台場の警備を命じられる。	6 ベリーが黒船を率いて浦賀に来航する。
				鶴馬の紅花栽培が『秩父日記』に載る。	
	1854	安政1		この年、川越藩が、新河岸川筋の間屋へ非常時の出仕準備を命じる。	3 日米和親条約に調印する。
	1858	安政5			12 日露和親条約に調印する。
	1859	安政6		この年、大洪水で荒川堤防が決壊し、南畑地区の床上・軒下浸水が数日間におよぶ。	6 日米修好通商条約に調印する。
	1860	万延1			1 威臨丸がアメリカに向けて出発する。
	1861	文久1	3	佃堤の件で宗岡村へ三南畑村が抗議する。	3 桜田門外の変が起こる。
			7	再び、佃堤の件で宗岡村へ三南畑村が抗議する。	
			11	皇女和官の通行により市域の村々にも臨時に加助郷が課せられる。	
	1862	文久2		8 生麦事件が起こる。	
	1863	文久3	12	川越藩が江戸湾一の台場の警備を解かれる。	5 下関事件が起こる。
					7 薩・英戦争が起こる。
					7 禁門の変が起こる。
	1864	元治1	8	川越藩が江戸湾二・五の台場の警備を命じられる。	7 第一次長州征伐が始まる。
					8 下関戦争が起こる。
	1866	慶応2	6	武州一揆で鶴馬村の妻屋・大久保村の大沢家・上南畑村の清吉間屋が打ち壊しにあう。	1 薩長連合の密約がなる。
7			川越藩が農兵隊を組織するよう各村に申し渡す。	6 第二次長州征伐がおこなわれる。	
10			川越藩主に松平康英が入封する。	12 徳川慶喜が第15代将軍となる。	
1867	慶応3	9	蛇木河岸の新間屋が船間屋の株を譲り受け、正式な間屋となる。	1 明治天皇が即位する。	
			この年、水子村の尾張藩鷹場陣屋が廃止される。	7 「ええじゃないか」が始まり全国に広がる。	
				10 徳川慶喜が大政奉還を上奉し勅許される。	
1868	慶応4	3	東山道を官軍が通過するために加助郷の通知がある。新政府が神仏分離令を出し、以後廃仏毀釈の運動が起こる。	12 朝廷が王政復古の大号令を出す。	
		5	飯能戦争で振武軍が壊滅する。振武軍の敗残兵の一隊が、物持ちから金品を略奪したとして、官軍により処刑される。	1 鳥羽・伏見の戦いが起こり戊辰戦争が始まる。	
			南畑地区の志戸・八ツ島・中丸など四カ所の荒川堤防が決壊する。	3 討幕軍が江戸に入る。	
				天皇が五箇条の誓文を誓う。	
				4 江戸城が開城する。	
(明治1)			5 上野に立て籠もった彰義隊が新府軍に破れる。		
			7 江戸が東京と改称される。		
			9 明治と改元され、一世一元の制となる。		